

地水火風

牧野 恒一

死者22万6000人を
超えたスマトラ島沖地震
(2004年、M9.3)
から、昨年12月26日で10
周年になり、哀悼の意を
込めた行事がインド洋沿
岸各地で行われた。筆者
は、それに先立ち、この
地震に伴う大津波で最も
大きな被害を出したスマ
トラ島北端のバンダアチ
エに、津波被害や津波火
災の状況と復興の状況を
調査するために行ってき
た。

本稿では、バンダアチ
エの津波被害と復興の状
況、及び現地を見て考え
たことを報告したい。

「スマトラ島沖地震とバ
ンダアチエの被害」
スマトラ島の沖では、
インド・オーストラリア
プレートがユーラシアプレ
ートの下に潜り込んでい
るため、たびたび大地

震が起る。2000年
以降だけでもM8クラス
の地震が7回も発生して
おり、日本近海よりも遙
かに多い。2012年4
月にもバンダアチエ沖で
M8.6の大地震が発生
している。中でも200
4年の地震は特別大きな
もので、M9.3はチリ
地震(1960年、M9.
5)に次いで20世紀以降
で2番目に大きなものだ
った。この地震と津波の
被害については、200
5年1月と2月の拙稿

「地水火風」で、「スマト
ラ島沖巨大地震とインド
洋大津波」と題して取り
上げている。

この地震によって発生
した大津波は東日本大震
災の大津波を遙かに上回
る巨大なもので、インド
洋沿岸各地で高さ10mを
遙かに超えた。死者・行
方不明者は、スリランカ

で3万5000人、イン
ドで1万2000人、タ
イで5000人、アフリ
カのソマリアでも100
人を超えている。中でも
被害が大きかったのはス
マトラ島北端部にあるア
チエ特別州の西海岸で、
死者13万人超、行方不明

者3万7000人超とき
れている。我々が訪れた
州都バンダアチエでは、
マラッカ海峡側からの津
波に加え、インド洋側か
ら峠を越えて来た津波に
も襲われ、人口の4分の
1にあたる6万1000
人が亡くなるか行方不明
になった。

各国合計の被害者数22
万6000人超は、中国
の華北地震(1556年、
死者83万人)、唐山地震
(1976年、死者24万
人へ60万人以上という説
も)に次ぎ、人類史上に
残るものである。

館以外にも、陸地の奥深
くまで流された大型船が
見学施設として開放され
ており、船上に上がって
津波の凄まじさを思い起
すことができる。イン
ド洋側からの津波が超え
た峠付近の畑の中には、
家ほどもある鉄筋コンク

「バンダアチエの被災直
後の状況と復興」
バンダアチエの被災直
後の状況は、地震後に建
設された津波博物館で見
ることが出来る。被災地
の映像と写真で見る当時
の様子、東日本大震災
で私たちが目にした状況
と変わらない。津波博物

活水準が地震前より遙か
に良くなったということ
だ。おかげで、独立運動
もテロもどこかへ行って
しまったらしい。
表面的には生活が良く
なって順調に見えるが、
住民の4分の1が犠牲に
なったという事実は重
い。通訳、政府関係者、
消防関係者など話をす
ると、家族を何人か亡く
している方はいなかっ
た。日本の津波の映像な
どを紹介すると、見よう
としない方もいて、改め

リート製のモスクの頂部
が鎮座しているが、何キ
ロも先から津波が運んで
きたものだという。
このように、バンダア
チエでは、現在でもあち
こちで津波の爪痕を見る
ことができるが、町全体
の復興、経済発展の好循環
が生まれ、現在では、生
進捗状況ははかばかしく

復旧・復興には、国連
を中心に、世界中の国、
企業、団体が協力。マレ
ーシアなど近隣国の資本
も、停戦により治安が良
くなったため進出できる
ようになり、このため、
経済発展も進んだ。復旧、
復興、経済発展の好循環
が生まれ、現在では、生
進捗状況ははかばかしく

「東日本大震災後の日本
と比べると」
バンダアチエを訪問す
るにあたって、改めて宮
城県北部を回り復旧・復
興の状況を見て来たが、
感謝の気持ちを表わして
いる。

スマトラ大津波から10年

バンダアチエは今

住宅の敷地は、住民の
元の住宅があった土地な
ので土地代金は要らない
が、また津波が来れば同
じような被害が出るのは
大きな問題である。
バンダアチエの市街地
は全体の標高が低いので、
土地のかさ上げも巨
大堤防も難しいため、再
び津波が来れば高層の建
築物に逃げて命だけは助
かるようにする、という
のが現実的な選択肢であ
る。
元の住宅敷地に復興住
宅を建設する、というの
も、そのような戦略に基
づくものなのだろう。
このような戦略を受け、
各国の援助を受けて大規
模な津波避難ビルが幾つ
も建設されている。津波
避難ビルの建設には、日
本も大きな役割を果たし
ていた。
「津波火災は起こった
か」
今回の調査の主たる目
的は、東日本大震災で幾
つも発生した津波火災
(津波瓦礫が堆積してい
るところで、自動車など
が発火源になって火がづ
くと、消防隊が駆けつけ
られないため大火にな
り、数ヘクタールから十
数ヘクタールが燃えてし
まう火災)が、バンダア
チエでも発生したか、と
いうことだった。
結論から言うと、津波
瓦礫が燃える火災は幾つ
か発生したが、単発の火
災で終わり、市街地大火
には発展していなかっ
た。建物の多くが煉瓦造
で、瓦礫に占める可燃物
の割合が日本より少ない
のが原因ではなからう
か。
だが、津波博物館の展
示の中には、津波火災を
思わせる絵もあった。津
波の際に火災が発生する
可能性があるとということ
は認識されている、とい
うことだろう。それが日
本のように大火にならない
理由は、生活の中にあ
る可燃物密度が小さいた
めではないか。

復旧・復興は「未来・
経済復興」が担当して
いるが、援助金を受け入
れる際には、現実を踏ま
えた柔軟な手法をとって
いる。この道路はこの
企業の援助で、この復興
住宅団地はこの国の援
助で、など大きな看板
に明記されているのもそ
の一つだ。援助金には色
がついていないので、一
対一に対応しているわけ
ではないと思うが、多額
の援助金を出した側とし
ては励みになるだろう。

住宅については、復興
庁が様々な援助金を活用
して36㎡程度の戸建て
住宅を住民の元の住宅の
敷地に建設し、1ヶ月2
000円程度で提供して
いる。その復興住宅団地
には、エリアごとに援助
金提供者名が明記され、
感謝の気持ちを表わして
いる。

「東日本大震災後の日本
と比べると」
バンダアチエを訪問す
るにあたって、改めて宮
城県北部を回り復旧・復
興の状況を見て来たが、
感謝の気持ちを表わして
いる。

今回の調査の主たる目
的は、東日本大震災で幾
つも発生した津波火災
(津波瓦礫が堆積してい
るところで、自動車など
が発火源になって火がづ
くと、消防隊が駆けつけ
られないため大火にな
り、数ヘクタールから十
数ヘクタールが燃えてし
まう火災)が、バンダア
チエでも発生したか、と
いうことだった。
結論から言うと、津波
瓦礫が燃える火災は幾つ
か発生したが、単発の火
災で終わり、市街地大火
には発展していなかっ
た。建物の多くが煉瓦造
で、瓦礫に占める可燃物
の割合が日本より少ない
のが原因ではなからう
か。
だが、津波博物館の展
示の中には、津波火災を
思わせる絵もあった。津
波の際に火災が発生する
可能性があるとということ
は認識されている、とい
うことだろう。それが日
本のように大火にならない
理由は、生活の中にあ
る可燃物密度が小さいた
めではないか。